

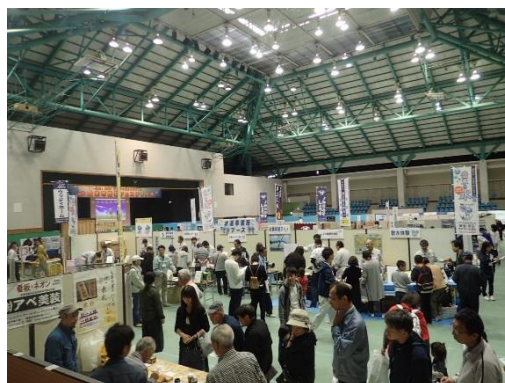
水道事業をPR！第13回産業フェスティバル

■多くの皆さんに水道事業をPR

地元のモノづくり産業や企業の紹介、市民との触れ合いの場を提供する「第13回登米市産業フェスティバル」が10月1日（日）に登米市迫体育館・中江中央公園を会場に開催されました。

登米市水道事業所では、水道に関するパネルや耐震管の模型展示、水道クイズ、ろ過実験などを行って市民の皆さんへ水道事業を知って頂きました。

今回は、多くの方が訪れ大いに賑わいを見せた産業フェスタの様子をお伝えします。



■水道事業所のイベント

◆水道クイズにチャレンジ！！

登米市水道事業に関するクイズには、午前の部・午後の部併せて約400人の方がチャレンジしました。

答えのヒントが各ブース内に展示されていたため、参加者は、ヒントを探して各ブースをじっくりと見て回り、水道について学びながらクイズを楽しんでいました。

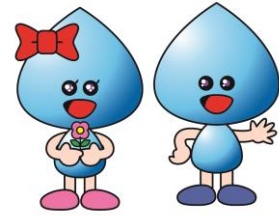
最後の回答ブースでは、回答の結果に応じて参加者にメモ帳やペン、災害時に役立つ給水袋などが贈呈されました。（問題&回答を下記に掲載しています。）



ブース内にあるパネルをよく見るとクイズのヒントが隠れています。



身近な水道に関するクイズに、大勢の皆さんがチャレンジしました。



◆どのようにして水はきれいなるの？「ろ過実験」

いつも飲んでいる水がどのようにしてできるのかを知ってもらおうと、浄水施設の運転管理を委託している明電舎・アイ・ケー・エス共同企業体と協力し「水のろ過実験」を行いました。

ろ過実験では、見学者に薬品の注入などを体験してもらいながら、濁った水がきれいになっていく様子を皆さんの目の前で実演しました。



ろ過実験に加えて、実際の浄水場の処理工程についても説明しました。



薬品の注入やろ過作業など見学者に体験をしてもらいました。

◆地震に強い水道管って？「耐震管模型展示」

製造メーカーの㈱クボタからスタッフを招き、地震に強い水道管（耐震管）の模型を展示しました。大きな揺れを受けても壊れない仕組みを模型を作り分かりやすくしてもらいました。



耐震管の模型展示。継ぎ手部分が稼働によって揺れに強い事を知ってもらいました



地震によって実際に水道管が動く様子がわかる耐震管の模型。

◆飲み比べて違いが分かる？「飲水体験」

飲水体験では、水の硬度について知ってもらおうと登米市で作られている水道水の8割以上を占める保呂和浄水場【登米】（硬度 40）の水、市販の水（硬度 300）、精製水（硬度 0）を飲み比べてもらいました。



3つの水を飲みくらべ、冷やした状態で味の違いがわかるかどうか試して頂きました。



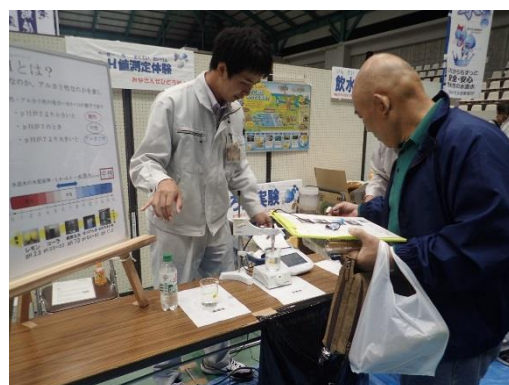
ふだんは気にしない「硬度」について解説を聞きながら飲水チャレンジ!!

◆水道水の pH 値って？「pH（ピーエイチ）値測定体験」

酸性やアルカリ性などの度合いを現す pH について、炭酸水、水道水、炭酸水素ナトリウムの pH 値をリトマス紙を使って実際に測定してもらいました。ふだん飲んでいる水道水（pH7.2）で飲みやすい水である事を多くの人に PR しました。



リトマス紙の色の変化で液体の pH が分かります。実際に色の変化を体験してもらいました。

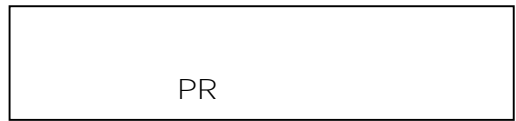


日常生活の中にあふれているさまざまな物の pH についてもパネルで分かりやすく展示しました。

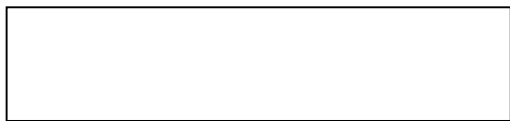
PR



PR



PR



PR

